

# はくあい

H A K U A I

発行所:博愛社/〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3丁目1-72/TEL06-6301-0367 FAX06-6301-5347  
 ホームページアドレス <https://hakuaisha-welfare.net>

菓子をいただきました。子ども達は「トリック・オア・トリート！」と元氣よく言う子や、少し恥ずかしそうにしながらも頑張って声を出す子など、それぞれの姿が見られ、どの子も笑顔でイベントを楽しんでいました。各部署の方々と直接関わることで、子ども達にとっても嬉しく心温まる時間となりました。また、地域交流の一環として、他の放課後等デイサービスとの関わりは今年度初めての取り組みでした。子ども達だけでなく、職員にとっても新たなつながりを感じる貴重な機会となりました。今後も、地域の事業所との交流や、法人内でのつながりを大切にしながら、子ども達の経験の幅を広げていきたいと思えます。

【児童発達支援管理責任者 吉本教郎】



トリック・オア・トリート

10月29日、ハロウィンイベントを行いました。29日は近隣の放課後等デイサービスを訪ね、恒例となっている法人内の各部署を回ってお

ハロウィンイベント  
 【放課後等デイサービスソレイユ】

## 新保育園 Open!

【博愛社こども園】

工事は順調に進んでおります。建物のシートが少し外されていきました。田川地区近隣の皆さま、どうぞよろしくお願ひします。



## ペアレント・トレーニング

【児童発達支援ステラ】

特別支援事業では、今年度よりABA（応用行動分析学）の考え方や手法を取り入れたペアレント・トレーニング講習会を開催しています。講師には公認心理師の大橋優先生をお迎えし、保護者の皆さまと一緒にお子さまの「できる力」を伸ばす関わり方や、日常の困りごとへの対応について学びました。講習会では記録やデータをもとに実践を重ねていき、最終回では子どもが安心して過ごせる「環境を整えること」の大切さに気付く機会となりました。また、参加者同士がそれぞれの取り組みや頑張りを認め合い、温かく前向きな時間となりました。保護者一人ひとりが自分自身を大切にしながら



第1回ペアレント・トレーニング講座

学び合い、お子さまの成長を共に喜ぶことのできる講習会となりました。今後も家庭と事業所が連携し、安心して子育てに向き合える支援を続けてまいります。

【児童発達管理責任者 山口あつ子】

四季折々

～出会い～

私の興味は美味しいものを食べる  
こと以外何もなく、ただ働いて帰宅  
後はテレビを見て寝る日々でした。案の定、年齢  
とともに体型はぷっくりとなり始めました。そんな  
時に新聞の折り込みチラシに目が留まり「春から  
テニスをはじめよう！ラケットもシューズもか  
ばんもプレゼント」の言葉に惹かれて、勇気を出  
してお試しレッスンを受けました。私と同じ初心  
者は年齢も幅広く学生から73歳の方がいました。  
コーチに教わり習得の早い生徒さんにも教えても  
らいながら徐々に「テニス」にハマっていきまし  
た。ネットでテニス募集があると参加もしていま  
す。社長さん、弁護士さん、お坊さん、高齢の方、  
三世代家族など多種多様な方と出会い、テニス後  
に食事や温泉も楽しんでいます。私自身もテニス  
を通じてこんな活発に行動ができることに驚きま  
した。昨年から春季・夏季・秋季試合にも挑戦し  
ました。練習試合では勝った相手にも本戦にな  
るとテニスの技術と何よりメンタル面の弱さで負  
けてしまい悔し泣きをしました。春季試合に向け  
てこれからもいろいろな方との出会いを大切にし  
ながら強い心を養っていきたいと思います。子ども  
達にも多くの出会いに恵まれて充実した人生を送  
ってほしいと願っています。

【児童養護施設博愛社 栄養士 棚橋次美】



新しい出会い

外国人介護スタッフ応援隊

【特養博愛の園】

高齢事業では2017年に  
清心館にて3人の留学生を受  
け入れたのが外国人介護ス  
タッフの始まりでした。現在  
両特養にて19名が働いており、  
特養の介護スタッフの約4人  
に1人が外国人で、そのうち  
12名がインドネシア人です。  
来日して日本に慣れていな  
いスタッフのために、2022  
年4月より「外国人介護ス  
タッフ応援隊」のポランテイ  
アさんに毎月1回1時間来て  
いただき、スタッフとの面談  
の中で日本語の使い方や暮ら  
しでの悩み事を聴いてもらっ  
ています。日本語学校では標  
準語を学んでいるため、特に  
関西弁が難しいそうです。  
外国人にとっても働きやす



熱心に日本語を学ぶ様子

い職場環境になって、長く働  
くことができそうですよ。に。  
【施設長 川田誠】

日韓保育交流研修からの学び

【こひつじ乳児保育園】

10月29日から  
11月9日の12日  
間、日韓保育交  
流で韓国の先生  
が研修で来られ  
最終日には評価  
会、セミナーも  
あり「安心、安  
全な保育」につ  
いて共に考えて  
みました。韓国  
では保護者の要  
望も強く制限が  
多いと聞きました。日本でも  
保育現場では遊びの中でケガ

をしたり、友だちとのトラブル  
からケガに繋がることもあり  
ます。医療的配慮が必要な子  
や、アレルギーを持つ子ども  
達もいます。常に危険と背中  
合わせの中での保育になりま  
す。しかしケガが心配で外遊  
びや運動を減らすと自ら危険  
を回避する力が弱くなったり、  
集団で遊ぶ経験が少なく他  
者とのコミュニケーション力  
が学べないのではないかと危  
険から子ども達を守る必要は  
あるが、成長に必要な事もあ  
るとの意見も出ていました。  
国や文化の違いはあっても、  
環境の安全確保や緊急時の対  
策を準備しながら、豊かな人  
間関係を育む事ができる安心  
安全な保育を模索して目指す  
思いは同じということを感じ  
ました。

【佐原未佳】



日韓保育交流研修歓迎会の様子

## 四恩学園との合同研修

【児童養護施設】

令和4年から始まった四恩学園と博愛社の合同研修会を今年も開催しました。事前に四恩学園4名、博愛社4名の職員がお互いの施設に研修に行き、「小規模化」をテーマに学びを深め、小規模化に取り組んでいる博愛社の現状と課題、四恩学園が今後小規模化するにあたっての取り組みを軸として話し合いをしました。計5回の研修を重ねるにつれて、自施設の取り組みの意図を理解し、その内容を今

後どのように施設に取り入れていくか等をあらためて考えるきっかけとなりました。最終日の12/3には聖贖主教会に両施設の職員が集まり、研修の報告会がありました。その後の交流会では様々な職種の方とのコミュニケーションを通して四恩学園の様々な取り組みをより深く知ることができ、良い学びの機会であったと実感しています。

【児童指導員 富川秀真】



12/3に行われた合同研修会の様子

- 博愛社後援会会費**
- ▽個人 1口 3千円
  - ▽法人 1口 1万円
- いずれも年会費で、期間は4月～翌年3月
- ▽郵便振替口座番号  
0092074676
- ▽口座名義  
社会福祉法人 博愛社

1月18日、ランチルームにて毎年恒例の「暖炉の火入れ式」を行いました。

金山チャプレンよりお祈りをいただいた後、5歳児が理事長先生とともに薪割りを体験し、暖炉にはあたたかな火が灯りました。当日は、0歳児の子ども達もはじめて暖炉を見学しました。火が少し弱まる場面もありましたが、園長先生方が子ども達の前で薪をくべると、暖炉からはパチパチと音を立てながら大きな火が上がり、驚きつつも興味深そうに見つめていました。「暖かいね」と声をかけると、にっこりと笑顔を見せてくれる子もおり、身体だけでなく心までほっと温まる時間となりました。

【副主任 松川恭子】



暖炉の火を囲んでハイチーズ!



燃えている火に興味津々のひかりぐみ

『博愛社こども園  
『ほっこり暖炉の火を囲んで』

【博愛社こども園

## 今後の行事に向けた練習の様子

【児童養護施設】

1/26の本番に向け、新春子ども大会の練習を開始しました。今年の演目がダンスに決定し、お馴染みの曲から流行りの曲まで幅広く取り入れている中、リズムに乗りながら楽しく練習に取り組んでいます。初めて見る振り付けに戸惑いを見せることもありましたが、ポジティブな言葉掛けのもと、前向きに練習を重ねています。そして、2/21に行われる駅伝・ロードレース大会に向け、11月から練習を開始しました。例年は博愛社の敷地内で練習



ダンスの練習をしている小学校1、2年生の女の子達です



大阪城の練習風景

【担当 安田唯・元持千穂】

た。走ることが苦手な子もいますが、早くに走り終わった子ども達も隣で励ましなが走り切る姿もあり、子ども達の姿に職員も前向きな気持ちをもっています。

していましたが、今年 はシャトルランや大阪城へのランニングなど新しい事に挑戦しまし

# クリスマス会

【ケアハウスはくあい】

クリスマスのディナーは毎年恒例で職員の手作りで行っています。

お食事は普段と違ったメニューで、テーブルには小さなクリスマスツリーも飾り、そして今年は職員によるハンドベルの演奏をプレゼントさせてもらいました。演奏に合わせ皆様も歌ってくださり楽しいひと時を過ごしました。皆様が楽しんで頂ける事、穏やかに過ごせることを願ってメリークリスマス。

【施設長 小野真友美】



手作りの食事でXmasを祝いました

## 博愛社フェスティバルのお礼

10月19日に開催した博愛社フェスティバルは沢山の方に来場して頂きました。今年は、博愛社の卒業生のご紹介でキッチンカーも来ていただくことができました。各模擬店の売り上げの10%を日本赤十字社に募金すると共に、児童養護施設で暮らす子ども達へ還元し、より豊かな生活を送ることに役立てさせていただきます。また、バザー用品にご協力いただいた地域の企業様、皆様には感謝申し上げます。来年も人とのつながりを感じることができる博愛社フェスティバルを開催していきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【フェスティバル委員会 藤村真美華】



来年もよろしくお願いいたします！

博愛社の創設者、小橋勝之助が死去し、若干二〇歳の弟実之助が二代目の社長として就く。博愛社は林歌子や阿波松之助らの協力で、一八九九

昭である。一九一一年（明治四四）年に長期にわたって慈善事業施設の全国調査を行い、その「全国慈善事業視察報告書」の中で「博愛社ハ現時ノ模範事業ト見テ可ナラン」と報告し、両人とも好印象であった。

東京にて専門家の講演を聞き、事業の向上、知識の修得を目的としたものである。講習会は一九〇八年に開始され、毎年秋に行われて行く。実之助もこういう機会に積極的に参加し、施設経営のノウハウを

際しては「感化事業講習会」（一九一〇号）として、平田内務大臣、留岡幸助、井上友一らの報告、三人の講習科目等を報告している。この会には三七〇名の参加があった。五回目（一九一二年）では実之助の「滞京旬日」（一三三三）という題で、二〇を越す講習科目

あった。実之助は参加した様や感想を詳細に報告し、社内外に機関誌を通して共有していく。こうした彼の態度が施設の発展に貢献していったのだろう。更に実之助の当時の日記を紐解くと、会の状況や風景が実之助の目を通して、より鮮明に見える。多くの人物に逢い、報告の感想等、実之助個人の思いも読み取れる。かかる彼の若い時からの研究への姿勢が結果として博愛社への評価に繋がっており、その伝統が今、我々の膨大な文書との出会いという恩恵に浴しているのだらう。

（関西学院大学名誉教授

室田保夫）

## 博愛社と小橋実之助——伝統と発展

博愛社の歴史探検 [47]

内務省の主導の下、感化救済事業講習会をスタートさせた。この事業は地方改良運動と連動して行われ、慈善事業の地方での強化をはかった。つまり当時は未だ慈善事業経営において、専門性や基礎知識も乏しい状況で、

身に付けていき、参加した講習会の模様を『博愛雑誌』で報告した。以下『博愛雑誌』から一回目と五回目の参加報告を瞥見しておこう。一回目の参加に

目名と報告者が、そして家庭学校や滝乃川学園等の施設の視察の報告等が三頁に亘り詳しく報じられている。会は十一月一日から月末まで開催、密度の高い講演や報告が